

2019年 国内Dockerコンテナ / Kubernetes に関するユーザー導入調査結果を発表

Japan, 2019年7月3日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社（所在地：東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長：竹内正人、Tel代表：03-3556-4760）は、コンテナインフラストラクチャソフトウェアのDockerコンテナ（以下、コンテナ）とコンテナオーケストレーションツールのKubernetesの導入状況に関する調査結果を発表しました。本調査では、2019年4月に国内の企業および組織468社に対してアンケート調査を実施しました。

コンテナの導入状況について調査した結果（図）、本番環境で使用している企業は9.2%となり、2018年調査からの上昇率は1.3ポイントにとどまりました。さらに導入構築 / テスト / 検証段階にある企業は16.7%となり、これも2018年調査からわずかな上昇となりました。この結果から、Dockerコンテナは導入構築やテスト / 検証に時間を要し、本番運用になかなか移れていない状況にあると考えられます。また、使用を計画、検討している企業と情報収集や調査を行っている企業の割合が2018年調査からやや低下しています。この傾向は導入意向のある企業とそうでない企業がはっきりしてきており、具体的な導入に向けた検討や調査の段階に移ってきていると考えられます。

コンテナを本番環境で使用している企業と導入構築 / テスト / 検証段階にある企業を対象に、Dockerコンテナ環境で使用しているコンテナオーケストレーションツールについて調査した結果、45.5%の企業がKubernetesを使用していることがわかりました。その次に多く使用されているのがベンダーディストリビューションであるRed Hat OpenShift Container Platform（以下、Red Hat OpenShift）で19.8%となりました。Red Hat OpenShiftではコンテナオーケストレーションツールとしてKubernetesが採用されているため、Kubernetesがコンテナオーケストレーションのデファクトスタンダードになっていることがわかります。

コンテナが導入している環境について調査した結果、オンプレミスが45.5%、IaaS（Infrastructure as a Service）が31.4%、PaaS（Platform as a Service） / CaaS（Container as a Service）が23.1%となりました。IaaSとPaaS / CaaSを合わせると54.5%となり、クラウドサービス上に導入している割合が半数を超える結果になりました。

コンテナの導入促進要因について調査した結果、「インフラの使用効率向上とコスト削減」が34.7%で最も高い回答率となりました。コンテナは仮想マシンに比べて軽量で集約率が高く、CPUやメモリなどのインフラリソースの使用効率が向上し、コスト削減

にもつながります。2番目に回答率が高かったのは「開発者の生産性の向上」で30.6%となりました。アプリケーションの開発者が容易に開発環境やテスト環境を用意することができたり、開発環境の差異をなくすることができるなど、コンテナは開発者にとって大きなメリットがあります。3番目以降は、「アプリケーションの信頼性 / 可用性の向上 (28.1%)」「アプリケーション運用の効率向上とコスト削減 (28.1%)」「アプリケーション開発 / リリーススピードの向上 (27.3%)」が続き、アプリケーションに関する効果がコンテナの導入を促進する主要な要因になっています。

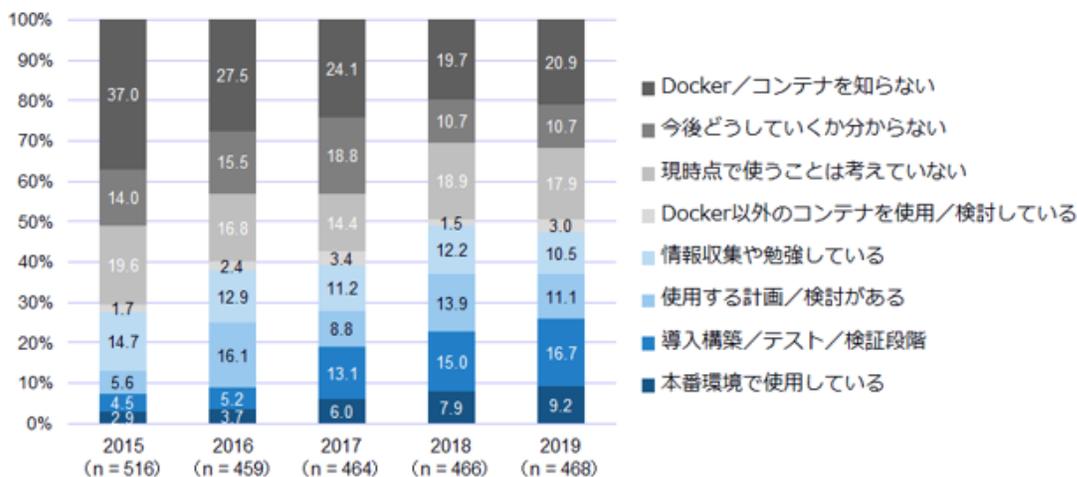
IDC Japanのソフトウェア & セキュリティ リサーチマネージャーである入谷 光浩 は「コンテナはアプリケーション開発の生産性やアプリケーション能力を大きく向上させる技術であり、クラウドネイティブアプリケーションには必須である。しかし、現在の国内市場において、コンテナはまだキャズムを超えられていない。一方で、CaaSのようなコンテナとKubernetesの導入が容易なコンテナ向けクラウドサービスや、ベンダーとSIerのコンテナ導入支援サービスが充実してきており、導入に苦労している企業やPoCで止まっている企業にとって強い味方になるであろう。来年までにはキャズムを超え、コンテナの本格的な普及期に入っていくであろう」と述べています。

今回の発表はIDCが発行した2019年国内クラウドインフラストラクチャソフトウェア市場 ユーザー動向調査 にその詳細が報告されています。本レポートでは、アンケート調査結果をもとに、国内ユーザー企業におけるクラウドインフラストラクチャのニーズ動向について集計 / 分析したものです。DockerコンテナとOpenStackの導入状況、仮想サーバー環境のオンプレミスからクラウドへの移行状況などについて分析を行っています。また、2019年国内コンテナソリューション市場動向 では、ソフトウェアベンダーとクラウドサービスプロバイダーのコンテナソリューションの動向を分析しています。

< 参考資料 >

図1. Dockerコンテナの導入状況に関するユーザー調査結果 (調査年別)

Figure 1



Source: IDC Japan, 7/2019

About IDC

IDC is the premier global provider of market intelligence, advisory services, and events for the information technology and telecommunications industries. IDC helps IT professionals, business executives, and the investment community make fact-based decisions on technology purchases and business strategy. Over 775 IDC analysts in 50 countries provide global, regional, and local expertise on technology and industry opportunities and trends. For more than 40 years, IDC has provided strategic insights to help our clients achieve their key business objectives. IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. You can learn more about IDC by visiting <http://www.idc.com/>.

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at www.idc.com.

All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan
jp-press@idcjapan.co.jp
+81-3-3556-4768